

(別紙12)

大学「地（知）の拠点整備事業」ホームページ掲載用原稿記入フォーム

※以下の項目を参考の上で作成をしてください（様式は自由です）。

実習企業・機関	特別養護老人ホーム芙蓉荘
実習期間	平成 30年 2月 19日 ~ 平成 30年 2月 23日
学生氏名	伊藤琴菜
実習プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ・申し送り見学 ・事業所見学 ・介護保険制度についての説明 ・ケアプランの説明 ・ケアプランカンファレンス見学 ・看取り介護カンファレンス見学 ・利用者の方とお話し ・入浴介助 ・食事介助、見学 ・水分補給介助、見学 ・おむつ交換、体位交換見学 ・移動介助 ・リネン交換 ・レクリエーション参加 ・洗い物
学び・気づき (300字程度)	利用者の方とコミュニケーションをとってみて、お話しをよくされる方、そうではない方、認知症の方、言葉をお話することが難しい方といった様々な利用者の方と関わることができた。介助の際には声かけを行うことで安心感を生み、信頼関係を構築できることを学んだ。職員間の連携については、大学の講義でしか学ぶことしかなかったため、実践現場ではどのように行われているのかを知ることができて良かった。職員の方は、普段の業務中でもカンファレンスのときでも利用者の方の容態や今後の生活をよりよくするための提案などを沢山出し合っていて、観察力があるのと同時に共有する力があるのだと感じた。
今後に向けた 抱負 (200字程度)	今回の実習を通して、利用者一人ひとりの個別性を尊重して関わること、観察力を身につけることが重要だと感じた。課題としては、仕事内容や利用者の方について疑問に思ったことを職員の方へ伝えるときに説明が分かりにくくなってしまったことが挙げられる。社会人であれば、時間が限られている場面が多くあると思うので、簡潔に言いたいことが伝わるような話し方を身につけたい。また、今後はボランティア活動等で人と関わり、さらに人々の個別性について学んでいきたい。
インターンシ ップをして気づ いた、実習先の 魅力 (300字)	<p>実習をしてみて最も印象に残っているのは職場の雰囲気の明るいことである。利用者の方の個性を大切にして、あたたかい介護を提供しているが、職員間ではキャリアや職種に関係なく、業務中に気づいたことがあれば何でも言い合える関係性や雰囲気がつくられていると感じた。</p> <p>また、職員の方には、介護保険制度の基本的な部分の説明や、現場で働いているからこそ感じていることについて教えていただいた。例えば経管栄養法や看取り介護である。どのような選択をすることで、利用者の方が望ましい生活をおくれるのかをご本人、ご家族、職員の立場の考えを教えていただくことができた。このような貴重なお話しを伺うことができるため、介護現場の現状について興味がある人にインターンシップ先としてぜひお薦めしたい。</p>

写真 (1~3点)



(別紙12)

大学「地（知）の拠点整備事業」ホームページ掲載用原稿記入フォーム

※以下の項目を参考の上で作成をしてください（様式は自由です）。

実習企業・機関	特別養護老人ホーム芙蓉荘
実習期間	平成 29 年 3 月 9 日 ～ 平成 29 年 3 月 17 日
学生氏名	齋藤翔太
実習プログラム	<p>⑩ 特別養護老人ホーム芙蓉荘 介助見学(入浴介助、起き上がり介助、排泄介助、口腔ケア、申し送り、手浴等) 介助体験(昼食介助、利用者の髪を乾かす、シーツ交換等)</p> <p>⑩ デイサービスセンターたんぼぼ 昼食の準備・片付け、レクリエーション・体操等の体験</p> <p>⑩ グループホームはまゆう 昼食の下ごしらえ、買いだし、神社の清掃等</p> <p>⑩ 小規模多機能ふよう・地域密着型介護施設あおい 説明と見学</p>
学び・気づき (300字程度)	<p>利用者が自立を最大限にできるような介助を心がけ利用者の能力を維持する必要があるため、利用者の現段階の能力を把握しておく必要がある。これは、職員の負担を軽減するためでもあるが、できることの多い利用者を全介助してしまうと、もともとの能力を失ってしまうためである。また、介助を行う際にも職員が一声かけていることに気付き、私も「少しいいですか」や「大丈夫ですか」等の声掛けを行うと利用者も協力的になった。敬意をもって接することの必要性に改めて気付かされた。利用者の健康状態の確認にもなるため、やはり介護を行うにもコミュニケーションは重要である。</p>
今後に向けた 抱負 (200字程度)	<p>実習期間中は多くの施設を訪問し、介助・コミュニティ・自由度・料金等それぞれの施設の長所と短所があり、高齢者施設といっても一括りにせず、利用者のニーズに合わせた広い視野で考えて行きたい。</p> <p>高齢者との会話は上手くはずまなかったり何度も同じ話しを行ったりもするが、コミュニケーションは介助では大きな役割を持ち、こちらも励まされる場面が多いため、ちょっとした気遣いを心がけていくようにしたい。</p>
インターンシップをして気づいた、実習先の魅力 (300字)	<p>特別養護老人ホームは、利用者の能力に見合った介助も判別しなければならぬため管理の仕事もあり、常に何かしら忙しそうであった。また、私は日中と夕方までの業務を見学・体験したが、夜間帯まで活動している職員の話しも聞き、大変な仕事だと思った。しかし、職員は利用者にお礼を言ってもらえることが一番嬉しいとお聞きし、実際に介助の際にお礼を言う利用者やお話好きの利用者が多くやりがいを感じられる仕事だとも思った。介護施設では画一的な介護のイメージがあったが、実際には、利用者の能力に応じて能力を維持する対応や楽しみを見出す活動を重視していて、インターンシップを行ってイメージが変わった。</p>
写真 (1～3点)	